

総合文化センター20周年事業
 第33回国民文化祭・おおいた2018
 第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会

グランドオペラ共同制作
 ヴェルディ作曲
 オペラ『アイーダ』
 全4幕



iichiko総合文化センターの20周年を祝うにふさわしい、オペラの最高傑作『アイーダ』が上演されました。札幌、神奈川、兵庫、大分と全国4カ所を縦断した公演はイタリア・ローマ歌劇場と連携し、各県の劇場と東京二期会、札幌交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団との共同制作。大分公演はその千穉楽でもありました。当劇場2回目の登場となる、世界的指揮者アンドレア・パッティストーニ氏にも期待が高まり、満席の会場には、この日を楽しみにしていたという和服の女性などおしゃれを楽しむ観客や、小さな子どもの姿も見られました。『アイーダ』では第2・4幕でバンド（オーケストラとは別の場所で演奏するアンサンブル）が活躍します。公演があった4会場それぞれ、地元の方に演奏していただくということでも、大分では大分県立芸術文化短期大学に依頼。あまり時間がない中、清水万敬教授（ホルン）ご指導のもと音楽科の学生17名が参加し、大分県立芸術短期大学（当時）出身の偉大な先輩である木下美穂子さん（アイーダ役）との共演となりました。参加した学生は「第一線で活躍されているプロの方との共演は初めてで、多くのことを学ばせていただきました。また、出演者をはじめ、舞台や衣裳などスタッフの方々のおかげでオペラが作り上げられている現場に携われ、貴重な体験でした」と語りました（写真左上：舞台袖での前日リハーサルの様子）。オーケストラとは異なる、舞台の上手袖という観客から見えないところでの演奏だったので、最後のカーテンコールで出てきて驚いた方も多かったと思います。終演後は、鳴りやまない拍手に別れを惜しむかのように、何度も何度もカーテンコールが行われました。



関連企画 7/15(日)～11/1(木)
 ミュージカル『マイ・フェア・レディ』特別体験ワークショップ



11月1日の公演前には、本物のセットと生オーケストラで同作のナンバーを歌って踊る特別体験ワークショップの発表が行われました。募集開始からわずか40分で定員に達したこの人気企画には、小学生から70歳まで110名が参加。7月から本公演の振付、歌唱スタッフから指導を受け、この日のために練習を重ねました。ステージでは、参加者がお揃いのTシャツに身を包み、「教会へは遅れずに」を歌いながら、息の合ったダンスを披露。全員のパフォーマンスが会場を熱く包み込み、観客ほか、客席に駆け付けた本公演のキャスト陣からも盛大な拍手が送られました。

総合文化センター20周年記念事業
 第33回国民文化祭・おおいた2018
 第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会

ミュージカル
 『マイ・フェア・レディ』
 大分公演(全国大千穉楽)

時代を超えて愛される不朽の名作『マイ・フェア・レディ』が、日本初演55周年の今年、朝夏まなとと神田沙也加という新しいプリンセスを迎え、上演されました。クラシカルな英国の香りと華やかさはそのままに、個性豊かな登場人物たちの生き生きとした情感がより際立つ舞台として好評を博したりボーン（再誕生）版で、観客からは「キャスト同士の仲の良さが伝わってくる」「とにかくイライザが可愛い!」などの声が。特に11月1日の公演は全国大千穉楽ということもあり、宝塚歌劇団を退団後、初の女性役を演じた朝夏さんのファンが全国から押し寄せ、カーテンコールでは観客全員がスタンディングオベーション!朝夏さんが「今日まであつという間で、イライザが成長する姿に私も勇気づけられました。皆さんの心に残ったらいいなと思います」と語り、ヒギンズ教授役の寺脇康文さんから「大分最高!!」の言葉も飛び出しました。